

茨城県立小瀬高等学校授業改善推進プラン全体計画（令和7年度版）

[関係法令]

日本国憲法、教育基本法
学校教育法、学習指導要領
いばらき教育プラン

[実態]

[生徒]まじめ、控えめ、活動には前向き、多様な進路
[学校]3コース制、少人数対応、体験的な学びを重視、異年齢・異学年活動
[地域]少子高齢化、協力的な地域の方々、豊富な地域資源

目指す学校像

[教育理念]

生徒を主語にした教育
～伴走者としての関わり

安心安全な場で行う教育
～小ささを強みに

地域と共に歩む教育
～地域と学校がWin-Winの協働

[育てたい生徒像]

自分を大切にする人

他者とつながる人

地域・社会に関わる人

学校経営方針（重点目標[重点項目]「教科指導・学習指導」「授業改善」より）

- 日々の授業において、生徒の観点別学習状況を評価し、その結果を生徒の学習改善、教員の指導改善につなげ学習指導の質の向上を図る。
- 「総合的な探究の時間」を中心に各教科等で体験的な学び・探究的な学びを多く取り入れて、生徒の主体的な学びを支援する。
- 生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。
- タブレットや電子黒板の活用を推進するとともに、オンラインを含め授業の進め方など、ICTの活用を研究し、授業力の向上を図る。
- 生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。
- 生徒による授業満足度の学校評価平均値3.5以上を目指す。

今年度の重点目標

探究を軸とした学びを通して、小瀬型学力を身に付ける

- ・興味・関心をもつ
- ・自分の考えをもつ
- ・相手に伝える
- ・相手の話を聞く
- ・挑戦し続ける

本校の授業改善の視点

(1) 指導内容・指導方法・学習形態の工夫

		具体的な取組み例
①小瀬型学力を身に付ける	興味関心をもつ	<ul style="list-style-type: none">・導入で時事的な話題を取り上げる。・学習の目標が分かるように、単元ごとに目標を提示する。
	自分の考えをもつ	<ul style="list-style-type: none">・探究的な活動で自ら設定したテーマを研究し、その成果を発表させる。・興味がある科学現象をテーマに、調べ学習を実施し発表させる。
	相手に伝える	<ul style="list-style-type: none">・参加した行事や実生活を題材とした国語表現の授業。・探究的な活動で、他校とオンラインでの情報交換。
	相手の話を聞く	<ul style="list-style-type: none">・国語のリスニングテストを実施。・グループワーク・ペアワークを積極的に実施。
	挑戦し続ける	<ul style="list-style-type: none">・少人数の利点を活かし、資格取得など目指す目標に挑戦できる指導。・特進コースの少人数授業で各人が目指す進路実現のためのきめ細やかな指導。
②基礎的知識の定着		<ul style="list-style-type: none">・定期的な漢字・英単語・数学テストの実施。・単元ごとに「学習のまとめ」のプリントを実施。・習熟度別にクラスを分けて授業を実施。
③ICTの活用		<ul style="list-style-type: none">・GoogleFormを活用した単元確認問題の実施やデータ収集、課題提出、授業振り返り。・デジタル教科書を使用し、発音練習や音読を実施。・グループワーク等でGoogleスプレッドシート、スライドを共有し作成する。
④体験活動の充実		<ul style="list-style-type: none">・座学と体験的学び（実習、製作など）を組み合わせる。・多彩な行事による体験的な学びの実施。・福祉コースでの実践的な介護実習。
(2) 授業研究の工夫		<ul style="list-style-type: none">・相互授業参観により、授業を互いに評価する。・連携中学校で授業や授業参観を実施し、異校種の授業を学ぶ。・授業改善座談会を開き職員間の情報交換を実施。
(3) 授業評価の工夫		<ul style="list-style-type: none">・生徒による授業評価の意見をフィードバック。・定期考査のタイミングなど定期的に生徒に授業の感想アンケートをとる。
(4) 教育課程編成上の工夫		<ul style="list-style-type: none">・生徒の進路や入試制度に合わせた教育課程編成の見直しの実施。・小瀬高校の良さを活かした教育課程実現のため、各教科を超えた校内での意見交換を実施。